

支那案第八項可決
十二月十日
總會議決
第九條約
入

サルヘカラサルコトヲ言明ス』ト述ヘタリ議長ハ更ニ目下起草委員會ハ極メテ繁忙ナルヲ以テ更ニ完全ナル案文ヲ起草シ得サルヘキニ顧ミ本件支那側提案ハ之ヲ起草委員會ニ附託スルノ必要ナルヘシト諮ルヤ「ヴィヴィアニ」氏モ之ニ贊同シ結局支那提案第八項ハ其儘滿場一致ヲ以テ可決セラレタリ
越ヘテ十二月十日第四回總會議ニ於テ右第八項ニ關スル總委員會ノ決定ハ各國全權ノ正式承認ヲ經タルカ其ノ後支那ニ關スル九國條約ノ起草セラルルヤ中立義務遵守ニ關スル支那側ノ義務ヲモ追加シタル上其ノ第六條トシテ規定セラルルニ至レリ

支那提案第三項

十二月八日
第十四回
總會
支那全權
ノ陳述

第十節 支那關係國際約定締結問題

『極東ニ於ケル列國間ノ相互信賴ヲ増進スル爲メ列國ハ豫メ支那ニ通告シ支那ニ參加ヲ與フルコト無クシテ相互間ニ直接支那ニ關係ヲ有シ若クハ上述ノ地域ノ一般平和ニ關係ヲ有スル何等ノ條約又ハ協定ヲ締結セサルコトヲ約ス』トハ極東問題一般原則ニ關スル支那側提案ノ第三項トシテ掲記セラレタル所ナルカ支那全權ハ十二月八日ノ極東問題總委員會第十四回會議ニ於テ本問題ヲ提起セリ
先ツ此問題ニ關シ顧維鈞氏ハ次ノ如キ陳述ヲ爲セリ

『從來極東特ニ支那ニ關シテ締結セラレタル約定ニシテ支那ノ參加セス又ハ支那ニ豫告ヲ與ヘサリシモノ尠カラス此種ノ約定ヲ大別スレハ二種ト爲スコトヲ得ヘシ第一ハ列國カ支那ニ關シテ或種ノ行動ヲ爲ササルコトヲ約スルモノニシテ第二ハ支那ニ於ケル列國ノ一般利益ヲ相互ニ支持承認スルコトヲ約スルモノナリ

第一種ノ約定ノ例トシテハ當事國カ互ニ支那領土内ノ特定地域ニ於テ鐵道敷設權ヲ取得セサルヘキヲ約スルカ如キモノニシテ或ハ支那ニ對シ友好的ノ趣旨ヲ以テ締結セラレタルモノナリト雖事實上支那ノ自主發展ヲ阻害シ其ノ行動ノ自由ヲ束縛スルコト大ナルノ虞アリ

又第二種ノ例トシテ支那ヲ含ム極東ニ於ケル領土權又ハ特殊利益ヲ防護スルヲ目的トスルカ如キモノニシテ之ヲ更ニ三種ニ分類スルヲ得ヘシ

(イ) 締約國ノ領土ニ近接セル支那ノ或地方ニ於テ同締約國カ秩序平和ヲ維持スルノ特殊利益ヲ有スルコトヲ認ムル宣言又ハ是等地方ニ於ケル平和安全ヲ維持スルタメ相互ニ援助スルノ約定

(ロ) 支那ノ獨立、領土保全並ニ開戸門放ノ維持ヲ約シ又ハ支那ニ於ケル締約國ノ特殊利益ヲ防護スルタメ相互ニ援助スルコトヲ約スル宣言

(ハ) 締約國ノ一方カ他方ノ領土ノ接攘ニ依リ支那ニ於テ特殊利益ヲ有スルコトヲ承認スルモノ
斯クノ如キ約定ハ何レモ支那ノ自主權ニ觸レサルハ無ク其ノ存在ノ結果ハ支那ノ主權政策及行動ノ自由ヲ直接ニ阻害ス
ルノ事態ヲ存續セシムルニ至ル故ニ支那ヲ含ム極東ニ於テ上述ノ如キ約定ノ締結セラルルニ際シテハ支那モ必ス之カ協
議ニ與ルヘキモノニシテ假令該約定ニシテ支那ニ對シ友好的動機ニ出ツルモノナリトスルモ亦同様ナリ

理論上ヨリスレハ支那ハ右等約定ノ當事者ニ非サルヲ以テ之ヲ承認スルノ必要ナク又其ノ義務モナカルヘシ然レトモ斯
カル約定ノ多數存在スル政治上ノ效果トシテ例ヘハ勢力範圍ノ場合ニ於ケルカ如ク支那カ自ラ其ノ行動ノ自由ヲ保持セ
ムト欲スルモノモ成功シ得サルニ至ルヘシ

之ニ要スルニ支那政府ハ斯クノ如キ約定ヲ看過スルコトヲ得サルカ故ニ太平洋及東洋ノ平和ニ關係アル何等カノ約定ノ
列國間ニ成立スル場合ニハ豫メ支那ニ通告シテ參加ノ機會ヲ與フルコトト致シタシ

右ニ對シ「バルフォア」氏ハ次ノ如ク述タリ

「バルフ
オア」氏
ノ意見

『支那全權ノ要求セラルル所ハ其ノ根本趣旨ニ於テ寔ニ同感ナリ然レトモ實際ノ事情ヲ見レハ支那ノ政策ハ支那自ラノ
定ム可キ所ナリ今支那全權ハ支那ノ勢力範圍ノ設定セラレタル原因ニ關聯シテ述ヘラレタルカ英國ノ關スル限リ勢力範
圍ノ如キハ過去ノ事實タリ英國ハ其ノ既ニ拋棄シタルモノヲ將來モ維持スルノ意思毫モナシ但シ勢力範圍ノ設定セラレ
タルハ全ク過去ニ於ケル實情ノ然ラシメタル所ニシテ獨露ノ侵入ニ對シ支那自ラ防禦スルノ實力ナク支那ニ商業關係ヲ
有スル諸國ニ於テ已ムヲ得ス獨露ノ侵入ヲ妨ケンカ爲ニ設定シタルモノニ外ナラス斯ル狀態ハ速ニ改善セラレンコトヲ
切望スルモノナルモ事實上乍遺憾其ノ域ニ達セリト云フヲ得ス從テ今日唯一ノ有效ナル方法トシテハ列國ニ於テ出來得
ル限リ支那發展ヲ阻害スルカ如キ方策ヲ取ルコトナク同時ニ支那カ鞏固純粹確實ナル政府ノ樹立ヲ助クルカ如キ政策ヲ
執ルノ外無カル可シ單ニ一般の原則ヲ決定スルモ結局其ノ效ナカル可キノミナラス右支那全權ノ主張ハ却テ他國ノ條約
締結權ニ制限ヲ加フルモノニシテ贊同シ難シ若シ支那ノ見解ヲ極端ニ考フレハ佛白兩國カ獨逸ノ進撃ヲ妨ケン爲ニ同盟

協約ヲ結フコトアリトセンニ是亦第三國ニ干涉スル約定ヲ作ルモノニシテ不可ナリト謂ハサルヲ得サル可シ加之今日ニ
於テ條約等公表ノ原則定マリ國際聯盟ニ加入セル諸國ハ條約其ノ他約定ヲ聯盟事務局ニ登記スルノ義務アリ又米國ハ其
ノ憲法上祕密條約ヲ締結スルヲ得ス從テ「ルート」決議第一項ヲ以テ支那全權ノ要求スル所ヲ盡シタリト云フヲ得ヘク其
ノ上更ニ茲ニ決議スルノ要ナカルヘシト思考ス」

「ヒュー
ズ」氏提
言

陳垣全權
述

「ヒューズ」氏ハ「バルフォア」氏ノ言寔ニ尤モニシテ「ルート」決議第二項ハ支那全權ノ杞憂ヲ輕減スルニ足ル可シ支那ノ國
力増進ハ忍耐ヲ以テ之ヲ俟タサル可ラス徒ニ干涉脅迫ヲ以テスルモ將又受動的反抗ヲ以テスルモ其ノ目的ヲ達ス可キニ非
ス只吾人ハ支那ノ希望ニ副ハンコトヲ苦心スルモノナルヲ以テ或ハ「ルート」決議第一項ニ何等カノ説明ヲ添ヘテ支那ノ欲
スル所ヲ明ニス可キカ」ト提言セリ

次テ陳垣全權ハ「バルフォア」氏ノ明快ナル所言ニ對シ更ニ贅言ヲ加フルノ要ナシト認ムルモ茲ニ一言セント欲スルコト
アリ」ト前提シテ大要左ノ説明ヲ爲シタリ

『主權國ハ如何ナル條約又ハ約定タルヲ問ハス他ノ主權國トノ間ニ之ヲ締結スルノ權利アリ輿論及國際法ノ勢力ノ發展
ニ伴ヒ條約又ハ約定ニシテ世界ノ平和ヲ害シ又ハ第三國ノ權利若クハ利益ヲ侵害スルニ至ランカ當事國ハ或ハ直接外交
上ノ抗議ニヨリ或ハ支那モ其ノ一員タル國際聯盟ヲ通シ之ニ對シ措置ヲ取ラストスルモ強大ナル輿論ノ壓迫ニヨリ該條
約又ハ約定カ自ラ消滅セサルヲ得サルノ傾向ハ日ニ顯著ナラントセリ

然レトモ今列強カ支那ノ提議セル形式ノ取極ヲ締結セハ其ノ主權ニ重大ナル制限ヲ加フルモノニシテ日本全權ハ之ヲ以
テ不必要ニシテ望ミシカラサルモノナリト思考ス」

(右全文)

Sovereign nations have right of concluding any treaty or agreement between themselves. At the same time with the growing influence of public opinion and of International Law, it is daily becoming evident that should treaty or agreement prove prejudicial to peace of world, or violative of rights or interests

of third powers, it is bound to fall by itself under strong pressure of popular condemnation, if not on account of action taken against it by aggrieved parties either through direct diplomatic representation or through the instrumentality of the League of Nations, of which China is an active member.

But an engagement by powers in form now proposed by China will operate as serious limitation upon their sovereign rights; and in opinion of Japanese delegation, it is neither necessary nor desirable.

「ゲデス」氏追加條
賛成
支那全權

英國ノ勢力範圍
問題

次ニ「ゲデス」氏ハ「支那ノ欲スル所及列國ノ之ニ對スル批評ヲ綜合シテ考フルニ寧ロ「ルート」決議第五項トシテ「本決議ニ言明セル趣旨ニ反スルカ如キ條約其ノ他ノ約定ハ決議列國相互間又ハ決議列國ト第三國トノ間ニモ締結セサルコト」ノ一項ヲ追加スルコト然ルヘキカ」ト提案セリ之ニ對シ顧維鈞氏ハ「支那カ自力ヲ以テ國勢ノ發展ヲ遂ケサルヘカラサルハ誠ニ然リ只列國ハ之ヲ阻害セサルノミナラス助長スルノ態度ヲ採ラレンコトヲ希望ス「バルフォア」氏ハ條約ハ總ヘテ之ヲ公表スト云ハルモ尙秘密協約ナキヲ保セス「ゲデス」氏提案ノ如キ條項ヲ置クコトハ當ヲ得タルモノナリ」ト賛成シ「ルート」氏モ「ゲデス」氏ノ提案誠ニ可ナリ右ハ種々ノ利益アリ一方ヨリ云ヘハ單ニ支那側ニ對シテノミナラス自國ノ國民ニ對シテモ政府ノ行動ヲ明カニシ得ルノ利益アリ支那ノ現狀ハ寔ニ歩ニ歩發展スルノ外ナシ此ノ際之ヲ助長スルノ趣旨ヲ以テ本項ノ如キ決議ヲ爲スコト然ルヘシ只茲ニ一言シ度キハ勢力範圍ニ關スル「バルフォア」氏ノ聲明ナリ英國カ勢力範圍ヲ拋棄シタリト云フコトハ本月初メテ之ヲ聞ケリ「バルフォア」氏外務大臣在任中ノ説明トシテ英國ハ列國ニ於テ勢力範圍ヲ捨テサル限リ楊子江沿岸ニ於ケル其ノ地位ヲ擲タサルヘキ趣旨ヲ述ヘラレタルコトヲ記憶ス」ト述ヘタルニ「バルフォア」氏ハ「少シク横道ナルモ答フル所アルヘシ英國外務次官ハ千九百十七年十月三十一日下院ニ於テ「英國ハ勢力範圍ノ方針ヲ捨テ國際協力ノ方針ニ移ルヘキコト」(“The policy of spheres of influence in China has been superseded by one of international cooperation and the further development of this policy will no doubt form one of the subjects of discussion at Washington”)ヲ聲明セリ」ト説明スル所アリタリ

埴原全權
「ゲデス」氏
反對

賛成意見

「ホルデン」氏
反對
論支持

單獨決議
案成立

次テ埴原全權ハ「(一)「ゲデス」案ハ「ルート」決議第一項ノ趣旨ヲ敷衍シタルモノニシテ却テ其ノ效力ヲ弱ムル虞有ルコト(二)各國ハ條約締結上制限ヲ受クルコトトナルモ支那ハ全ク自由ヲ保有スルノ結果トナルヘキコト(三)列國ニ於テハ條約締結ノ自由ニ制限ヲ受ケ從テ主權ヲ制限セラレタリト非難ヲ招ク危險有ルコト(四)聯盟規約第八條ヲ以テ秘密條約成立ノ虞無キコト等ヲ指摘シ「如上ノ見地ヨリ考ヘ寧ロ「ゲデス」案無キコト然ルヘキカ」ト述ヘタルカ「ヒューズ」氏ハ要スルニ「ゲデス」案ハ原則ノ適用ヲ掲ケントスルモノニシテ原則ノ適用時ニ有效ナラストセス合衆國トシテハ「ゲデス」案ノ成立ヲ可トスト述ヘ「グイグイア」氏モ「ゲデス」案ノ成立ハ不必要ナルヤモ知レサルモ趣旨ヲ明確ニスル利益アリ加之第三國ヲモ間接ニ束縛スルコトトナリ有用ナリト謂ハサル可カラス」ト唱ヘ「シャンザー」氏モ其ノ成立ニ賛成シタルカ「ホルデン」氏ハ「埴原氏ノ謂フカ如ク右提議ハ或ハ不必要ニ非サルカ且ツ右「ゲデス」案ニハ條約其ノ他ノ約定ニ付テハ列國ノ實情ヲ明カニスルヲ得ルモ其ノ他ノ處置行動ニ付テハ言及スル所無キ憾アリ」ト述ヘ埴原全權ハ重ネテ其ノ原則ヲ弱メ列國ノ誠意ヲ疑フノ形ト爲ルコト無キカ又支那カ全ク行動ノ自由ヲ留保スルノ形式ト成ルハ歴史ニ鑑ミ支那カ自ラ列國ト各種ノ條約ヲ結ビ自ラ束縛ヲ招キタル實情ヲ考慮スレハ其ノ點ヲ明確ニスルコト必要ナリ」ト主張シタルニ「ヒューズ」氏ハ支那ヲ包含スルノ趣旨ニ改案スルコトヲ提言シ埴原全權ハ更ニ「ルート」決議ト別箇ノ決議ト爲サムコトヲ主張シタル結果左記ノ決議案ノ成立ヲ見ルニ至レリ

The Powers attending this Conference hereafter mentioned, to wit, the United States of America, Belgium, the British Empire, China, France, Italy, Japan, the Netherlands and Portugal declare that it is their intention not to enter into any treaty, agreement or arrangement or understanding, either with one another or individually or collectively with any power or powers which would infringe or impair principles which have been declared by the resolution adopted November 21st, by this Committee.

(右譯文)

九國條約
第二條編入

本會議ニ參列シタル下記各國即チ北米合衆國、白耳義、英帝國、支那、佛蘭西、伊太利、日本、和蘭及葡萄牙ハ相互間ニ又ハ各別若クハ協同ニ他ノ一國若クハ數國トノ間ニ十一月二十一日日本委員會ノ採用シタル決議ノ宣明シタル原則ニ反シ又ハ之ヲ害スヘキ條約、協約、取極又ハ諒解ヲ結フノ意思ナキコトヲ宣明ス

右決議案ハ其ノ後支那ニ關スル九國條約第二條ニ編入セラルルニ至レリ

十二月十二日
第十五回
總委員會

支那全權
陳述

十二月十二日極東問題總委員會第十五回會議ニ於テ支那ハ列國勢力範圍撤廢問題ヲ提議シタリ王寵惠氏先ツ立チテ次ノ如キ聲明ヲ朗讀セリ

第十一節 勢力範圍ニ關スル問題

『勢力範圍ナル語ハ多少漠然タル嫌アルモ要スルニ商業的若クハ其ノ他ノ權利利益ニ關スル特殊地位ヲ指スモノニシテ其ノ淵源ハ明確ナラサルモ獨逸カ山東ニ於テ之ヲ主張シタルヲ初トスルモノノ如シ而シテ其ノ形式ハ概ネ二アリ一ハ支那ヲ含マサル關係國相互ノ條約ヲ以テ之ヲ定メタルモノニシテ例ヘハ英獨借款鐵道ニ關スル千八百九十八年九月二日ノ協定ノ如シ其ノ二ハ支那トノ間ノ條約又ハ協定ニ基クモノニシテ例ヘハ千八百九十八年三月六日ノ獨支間ノ膠州灣租借條約、所謂二十一箇條要求ノ結果トシテ成レル千九百十五年五月二十五日日支間ノ條約及交換文書等ノ如シ是等關係協定ニ關スル説明書ハ既ニ配付シ置ケルヲ以テ茲ニ再言スルノ要ナシ

支那カ斯ノ如キ勢力範圍ニ分割セラレントスルハ事態頗ル重大ニシテ右ハ(一)支那ノ經濟的發展ヲ阻害シ(二)各國ノ商工業ニ對スル機會均等ノ主義ニ反スルノミナラス(三)列國ヲシテ經濟的要求ニ隱レテ政治的欲望ヲ遂クルノ野心ヲ増長セシメ結局支那ノ政治的保全ヲ脅カスト共ニ國際紛爭ノ禍因ヲ釀成スルニ至ルヘシ

英米兩國ハ既ニ本件撤廢ノ意思ヲ明ニシ殊ニ「バルフォア」氏ハ前回總委員會席上其ノ點ヲ明言セラレタリ支那ハ深ク之ヲ多トスルモノナルト共ニ從來諸國ノ勢力範圍要求カ支那國民ノ誤解ヲ招クコト大ナルノミナラス支那ノ主權制限ヲ來スニ至ル事態既ニ説明シタルカ如キニ顧ミ支那全權ハ此際他國全權ヨリモ英米ト同様ノ態度ニ出テラレムコトヲ希望スルモノナリ云々』

支那側説
明書

而シテ右支那側ヨリ配布セラレタル説明書中日本ニ關スル事例次ノ如シ

(一) 一九〇五年日露講和條約及同年日支條約